

2章 研究会の予測課題の作成方法について

「1章 試験課題の作成方法について(研究会による推定)」は、センターから試験作成に関する事項が公表されていないので、正しいと断言できない。しかしながら、様々な検討をしていくと、かなりの部分が1章の各種推定を裏付ける結果となっている。研究会は、平成28年度の予測課題を以下の理由による3案とした(下記イメージ図参照)。

(1) 8/15(火)1回目の予測課題

1回目の予測課題は、過去問の分析を踏まえた**研究会の案**である。

8/15(火)の段階では、まだ一般書籍(A社、B社)が販売されていない。従って、過去問を分析したうえで、研究会単独で想定できる予測課題を提案する。なお、研究会は、予測課題を3案としているが、「**80%以上ズバリの中する予測課題の解説**」の中で、項目別にあらゆるパターンを紹介をすることから、こちらとの平衡学習により毎週のように課題を繰り返し学習する方法に匹敵できる知識を得ることができると考えている。

(2) 8/31(月)2回目の予測課題

2回目の予測課題は、一般書籍(A社、B社)の内容を取り込んだ比較的**一般書籍(2社)に近い案**とする。

1章での解説および過去問の比較検討一覧表からも判断できるように、一般書籍(A社、B社)の内容及び予測課題は、試験元(センター)も十分精査して試験問題を作成していると考えられる。従って、2回目の予測課題は、この一般書籍の予測課題(2社併せて6案等)を徹底分析して、そこから出題されると思われる内容を抜粋し、予測課題を1案作成する。

(3) 9/15(金)3回目の予測課題

3回目の予測課題は、**一般書籍(A案、B案)**の内容を**50%程度**加味しながら、**残り50%程度は予測し難い**と考えられる内容を、過去問の分析を踏まえて盛り込んだ案とする。

H27の研究会の予測課題は、初年度ということもあり、1点予測課題とした。H28は、様々な観点と多くなり過ぎない妥当な予測数として3点予測課題とした。

(4) 9/30(日)80%以上ズバリの中する予測課題の解説

上記(1)～(3)は、あくまで予測課題であり、それだけでは他社と同じか、予測課題が少ない分、不利となる。研究会は、毎週のように様々な予測課題をこなす方法は、受験者にとって負担が多すぎること、結果的に何が正解なのと言う疑問に陥る可能性があること等から、3案に絞り込んでいる。しかし、これだけでは、十分な理解を得られず、幅広い応用力が身につくとは言い難い。それを改善するため、「**80%以上ズバリの中する予測課題の解説**」を組込んでいる。

これは、会員講座「**5章 過去問の項目別分析(H21～H28)**」における各項目と連動し、項目ごとに問題が予想される内容を解説することで、本課題の全体像が見えて来るというものである。また、ここでは、「**記述課題**」も取りまとめ。記述課題は、この資料を読んで頂くと、ほぼ80%以上解答できるように考えている(この記述内容は**丸暗記**して下さい)。

H27の1点予測では、初受験者で通学しないで研究会資料を丸暗記した方が一発合格となったこと(8章 2015年度のお役様の声参照)、H28の予測課

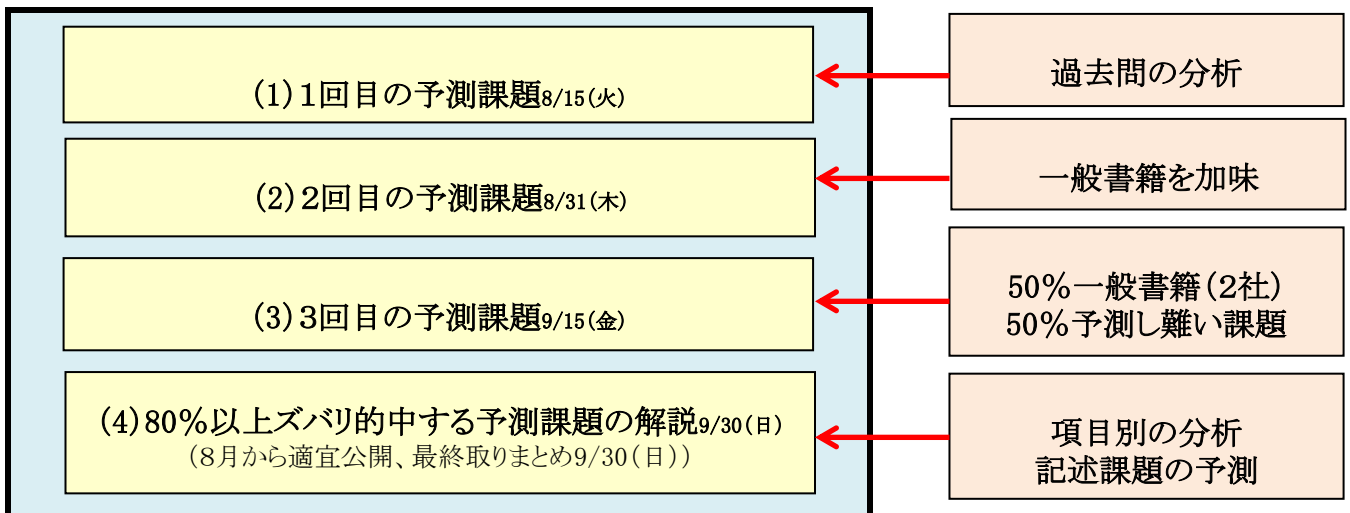


図 研究会の資料と検討概要

注) 研究会は、資格学校の様々な予測課題を毎週のように学習する方法を否定しているものではない。そもそも、合格者の約9割が資格学校へ通学する現状がある。研究会としては、予測課題を3例に留め、その先の「80%以上ズバリの中する予測課題」を作成することを特徴としている。予測課題を絞り込むことは、外れた場合に企業の存続意義が問われるので、企業としては行い難い一面がある。毎週のように課題をこなす方法は、結果的に当たり外れが無く企業責任も問われないが、「結局何が出題するの?」という疑問が生まれる。

その他、資格学校の良さは、通学することで同じ受験者と切磋琢磨できて刺激になると共に、日曜等の通学時は強制的に丸一日学習できる環境を得られるという利点もある。共に受験する人を切磋琢磨する環境は良いことである。それにしても、短期で30～40万円、長期になると50～60万円と言う法外な価格が一般化していることには疑問を感じざるを得ない。多くの若手からの意見も、この点は多かった。その金額でも1年で合格できるなら良いが、一般的に言われている合格までの総額は約200万円である(3～5年通学)。

なお、「H27全国ストレート(学科+設計製図)合格者は、1,594名中965名で60.5%」等の表現をされている資格学校があるが、一見、初年度で6割合格できると錯覚に陥るが、これは、合格者全員の中の占める割合が6割という意味であるので、誤解しないようにした方がよい。H27学科合格者は、4,806名であることから、この965名は、初年度受験者による割合としては、20%である。正しく確認するには、昨年の学科合格者のうち、昨年の通学者は何名?と確認すると、その学校の通学者のストレート合格率が判明する(宿題提出率**%、模擬試験**点等の条件無しでの確認をして下さい)。きっと、40万円掛けて、その合格率なのとビックリすることになると思われる。…再度、研究会は通学を否定しないが、通学者も独学者も研究会の資料も参考にしてください。